

ノアの箱舟に学ぼうリスク管理

国際人事研究所長 太田隆次

401Kにはリスクがあるといわれますが、そもそもリスクとは何でしょうか。経営では「リスク管理」といいますが、どういうことでしょうか？

二つのリスク

心理学者によりますと、後悔には「しなかったことの後悔」と「したことの後悔」があり、「しなかった後悔」の方が多くて、つらいそうです。リスクにも手をこまねいて「何もしないリスク」と、計算して「何かをするリスク」があります。

どの英和辞典にもあるように、英語の risk にも 1) 危険にさらす無謀なリスク (例 risk his life to save her –彼女を救うために自分の命を危険にさらす) と、2) 計算した上でやってみるリスク (例 risk a battle 計算した上で一戦を試みる) の二つの意味があります。経営でいうリスクは後者の意味で、元来は、リスクを計算してビジネスのタネにするイギリス保険業界で生まれた用語でした。

二段階あるリスク管理

経営は 24 時間、常にリスクに取り巻かれています。大きく分けて 1) 自然災害・事故 (地震、噴火、火災など) 2) 政治・経済・社会 (戦争、内戦、要人誘拐、為替変動、不買運動など) 3) 経営リスク (訴訟、M&A、メンタルヘルスなど) の三つです。

これらへの対策として生まれたのが「リスク管理」で、たとえば要人誘拐を「予知して予防」する事前の段階と、誘拐されたことへの緊急対応と迅速な交渉による復旧の事後の段階 (危機管理) の二段階があります。この二段階の「リスク管理」は他のリスクすべてにあてはまります。要は、そういうリスクをあらかじめ計算して「予防」することと、起こってしまった危機に備えて復旧することです。リスクへの備えは、この二段階があることを図表にしましたので参考にしてください。

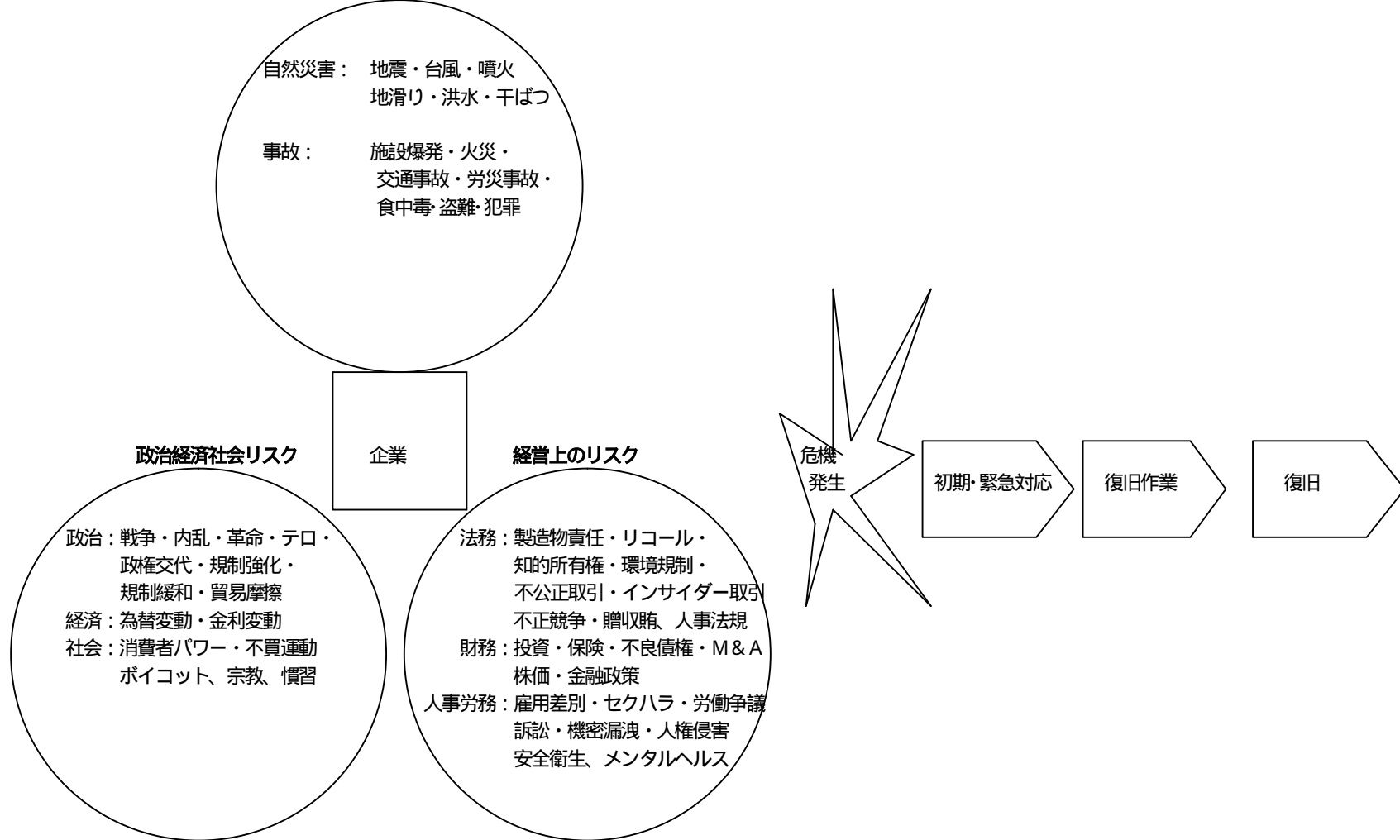
ノアの箱舟に学ぼう

経営だけでなく人生のリスクにも同じように、事前の「予知、計算、予防」と、事後の「危機への備え」が必要です。ノアの箱舟は、洪水というリスクを予知し、かつ人類が溺れても自分たちは生き残れるよう、たくさんの動物を積み込んだ史上初のパーフェクトな「リスク管理」といわれます。

国家財政の逼迫、増税による公的年金の削減、少子高齢化などのリスクを、自分の人生に自己責任でどう予知しどう備えるか、私たちもノアの箱舟を教訓に 401K を活用できるのではないのでしょうか。

図表

リスク管理の二つの段階 - 経営は常にリスクに囲まれている
災害・事故リスク



← リスク管理の事前段階 = 事前の予防・抑制・対応 → ← リスク管理の事後段階（危機管理） = 発生から復旧までの事後の対応 →